

みやぎの環境

特集

座談会「二十一世紀に向けて宮城の環境への提言」

NO. 12



1996

3

クリーン・オーストラリア

仙台オーストラリア領事館
領事 グレニス・シャントナー

オーストラリアの自然環境は、年間八十万
人近い日本の旅行者からお誉めの言葉を戴い
ています。しかし私たちオーストラリア人は、
こうした自然の維持に大変努力しているのです。

三年ほど前に、キーティンク首相は環境に
ついての声明を発表し、「自然環境は我々の最
大の資産である。それは我々の生命の根源で
あり、生活の基盤である。動植物、気候、景
観は金や石炭、鉄鉱石と同様に、我々の天然
の資産である」と言っています。

オーストラリアは多彩な気候や地形に恵ま
れていますが、先住民だけが住んでいた六万
年間より、植民が始まってからの二百年間の
方が、自然破壊が遥かに甚大であったことに
いち早く気付き、政府、企業、民間のあらゆる
レベルで、自然保護に力を入れています。
その一つに「グリーン・アップ・ザ・ワー
ルド」があります。一九八九年、一人のオー
ストラリア人が提唱した「グリーン・アップ・
オーストラリア」運動がシドニーで展開され、
四万人を越えるボランティアが、五千トン以

上のゴミを回収しました。これが発端となり、
国連の環境保護計画に協力して、今では全世
界百カ国近くが参加する国際的な運動にまで
発展しています。

西暦二〇〇〇年のオリンピックはシドニー
で開催されます。スポーツの名のもとに自然
を破壊してはならないと考える市民は、「グリ
ーン・オリンピック」と名付けて、環境に優
しいオリンピックにしようかと決意しました。

選手村の設計に際しては、地球温暖化、オ
ゾン層破壊、生物多様性、大気・土壌・水の
汚染、資源保護など環境に及ぼすあらゆる要
素が重視されています。街灯、湯沸かし、エ
アコンなどには太陽熱を活用、排水はリサイ
クル、有害なガスは使用しないなど至る所に
慎重な配慮が払われています。

私たちはシドニー・オリンピックを二十一
世紀の環境保護のモデルにしようと大いに張
り切っています。

CONTENTS

クリーン・オーストラリア	グレニス・シャントナー	2
特集◎座談会		
——二十一世紀に向けて		
宮城の環境への提言——		3
（さん）		
石巻 セツ石	柴崎 徹	8
エコライフ		
環境基本条例施行に伴う		
環境活動プラン・読者の声		10
INFORMATION		
NEWS・環境伝言板		
紹介・環境情報センターから		12
見る・聴く・ふれる		
御番所公園		14
まちなみ		
登米町	近江 隆	15

みやぎの環境 第12号



菜の花

表紙写真：ミズバショウ(宮崎町)

二十一世紀に向けて
宮城の環境への提言



鬼首からみた栗駒山

二十一世紀まであと五年足らずとなりました。

二十世紀の科学技術の発展はそれ以前には想像もつかないような便利さと豊かさを人々の生活にもたらしました。しかし、それとひきかえに多くの貴重な自然環境が失われてしまいました。現在も地球温暖化やオゾン層の破壊、酸性雨などによる地球規模の環境の変化が進んでいます。

二十一世紀は人間と環境の共存の時代といわれています。そこで、十二号記念特集として今回は「二十一世紀に向けて宮城の環境への提言」と題する座談会を企画いたしました。この企画が二十一世紀に向けて私達がより良い生活環境を築いていくためのヒントになれば幸いです。

座談会「二十一世紀に向けて

宮城の環境への提言

◎出席者

伊藤工ステル 仙台YMC Aホテル専門学校講師

近江 隆 東北大学工学部建築学科教授

奥脇 昭 東北大学工学部分子化学工学科教授

柴崎 徹 助宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
研究室長

◎司会

山本 仁 宮城県保健環境センター情報管理部長

司会 今日(今日は)諸先生方にはお忙しい所をお集まりいただき有り難うございませう。おかげさまで「みやぎの環境」も創刊から六年目、今回で十二号を迎えることになりました。そこで今回は記念特集として「二十一世紀に向けて宮城の環境への提言」と題する座談会を企画いたしました。先生方の忌憚(きたん)のないご意見をお



伺(伺)いして、今後の宮城県の環境の有るべき姿について考えていきたいと存じます。ここにお集まりいただいた柴崎先生には「しぜん」を、近江先生には「まちなみ」を本誌に連載していただいております。また、伊藤先生には編集委員として日本人とは異なった観点から宮城の環境に関するご意見を、奥脇先生には県の環境アドバイザーの育成研修などをとおして、いろいろとご助言をいただいております。そこでまず最初に今まで刊行された「みやぎの環境」の印象のようなのをお聞かせ下さい。

十二号を迎える「みやぎの環境」

柴崎 十二号発行おめでとうございます。十二という数は千支(ち)では丁度一回りです。そういう意味で十二号は記念すべき号になりますね。総合的に見て「みやぎの環境」はよくできた雑誌だと思えます。これは県の人ばかりでなく市町村、民間の人達みんな意見を出しあってくついているためでしょう。しかも、手作りであると言う点も評価できると思います。できたら年四回くらいいただしてもらい

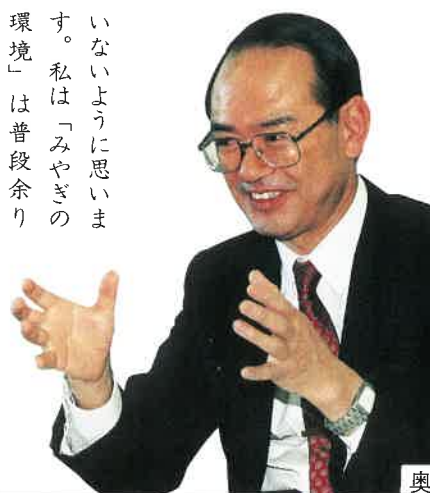
たいというのが私の希望です。

近江 私は第三号から「まちなみ」を担当してきましたが、今までは読者を余り意識せず、自分の率直な印象を述べてきたつもりです。この本の配布先をみると小中学生にも配られているようなので、これからは少し読者を意識していきたいと思えます。現在多くの人々は都市を車の窓からただ眺めているに過ぎません。これにどんな意味があるかあまり考えていないように思えます。都市を見ながら都市を見過(み)ごしているのではないのでしょうか。私(私)が心がけているのは、空間とか建物と対話できるようにしたらというところで、その観点から書いてきたつもりです。

伊藤 「みやぎの環境」は十一号から大きさがA4版になり見やすくなったと思います。私も「しぜん」や「まちなみ」が大好きです。毎回すてきな記事と美しい写真をありがとうございます。しかし、今までの「みやぎの環境」は宮城のいいところ、きれいな所ばかりを見せてきたところ、きれいな所ばかりを見せてきたところ、きれいな所ばかりを見せてきたところも見せる必要があるのではないでし

ようか。街を歩いて

る人も美しい所ばかりを見ていて汚い所を見て



奥脇先生

いないように思えます。私は「みやぎの環境」は普段余り人々が気がつかないような所を見せるという役割も担っているのではないかと考えます。

奥脇 毎号「みやぎの環境」は素晴らしいスポットを捕らえていると思います。私の生まれは山梨で富士山と湖がきれいなところです。しかし、宮城県のよいうな自然の多様性はないような気がします。宮城には海や山、川、ぶな林など自然がたくさんあります。私は近くの里山



八木山の松並木(仙台市)

などをよく散策しますが、青葉山、太白山など身近なところにも自然がたくさん残っています。

ところで、明治になるまで、日本人は自然にすべてを依存した農業を中心に生活してきました。自然抜きの生活はなかったといってもよいでしょう。しかし、明治以後産業が発達して石炭、石油を使用するようになってからだんだん自然を必要としなくなってきたのではないでし

ようか。しかし、実際は自然が無ければ人間は生きていけないわけです。産業が発達して以来、私達の生活は排気ガスやゴミ等の廃棄物を出して成り立つようになりまし。これらを十分管理できていないために地球温暖化や酸性雨やオゾン層の破壊といった現象が起こっているわけです。身近なところでは八木山の松が枯れ始めています。グローバルに環境を見ると同時に変わりゆく地元の自然を継

続的に観察していくことも大切だと思えます。

宮城の自然の素晴らしさ

司会 ではここで、宮城県の県土の持つ特性、可能性のようなものをお伺いしたいと思います。

柴崎 宮城県には自然を実感できる所がまだまだたくさん残っていると思います。宮城県は気候的にも全般に温暖で暖温带、冷温帯の両方に属しています。これが自然環境の多様性を作っているのです。地形的には西に奥羽山脈、北に北上山地、南は阿武隈山地に囲まれている、東北を代表する北上川、阿武隈川という二つの大きな河川が宮城県を流れ海に注いでいます。中小河川も網の目状に配置されており、雨や雪もほどよく降り、水が県土を潤しています。宮城県には名前の付いた山が五百もありま。私は三百五十くらいしか登っていませんが、この他にもまだまだ多いところがあります。みんな県土のよいところをさがすのも楽しいことではないでしょうか。郷土の人にとって自分の住んでいるところがよいところだといわれるほど嬉しいことはありません。確かに環境が破壊されているところもありますが、破壊が小規模なうちに修復していくことも大切ではないでしょうか。

司会 都市の中の自然とは、また都市の住民にとつての自然とはどんなものでしょうか。

近江 奥脇先生が最近の人間は自然を必要としないのではないかと言われましたが、モーターゼーションのなかで視覚に変化がでてきているのは確かです。都市では映像やメディアでしか自然を見ていないように思います。言い替えると生の空間を体験する事がなくなったのではないのでしょうか。仙台には以前は多くの歴史的な遺産がありましたが、これらも戦災や開発によって大半が失なわれてしまいました。大きな開発の波のなかに飲みこまれてしまったといってもよいかも知れません。私達はこのように失われていくものに対し



柴崎先生

てこれを阻止する力が弱かったのではないのでしょうか。このことは自然にたいしてもいえるでしょう。失われていくものにはたいする寂寥感せきりょうかんのようなものが私にはあります。人は見える物以外にも自然、風景、建物にたいして素晴らしい眼差しまなざしを持っています。そういう体験の機会にな



伊藤先生

ればと思つて「まちなみ」を書いてきました。

司会 エステルさんはお仕事の関係で世界を見ておられ、また日本の各地も見ておられると思いますが、宮城県をどう思われますか。

伊藤 何故、スイスのようなきれいなところから日本のようにゴミゴミしたところに来たかどよきかれます。確かにスイスは世界一美しいところだと思つています。しかし、宮城県にもよいところがたくさんあります。宮城県の人はその気がついていないのではないのでしょうか。一度観光客の立場になって外から宮城県を見るとその良さがよく分かると思います。宮城の人はもつと郷土に誇りを持つてよいのではないのでしょうか。また、子供達もメディアを通してだけでなく、直接森にでかけていきその素晴らしさに直に触れることをおすすすめします。

奥脇 離れるとその良さが分かるというのには確かだと思つています。日本は島国で昔から絶えず周囲を見ていないと落ちつかないようです。最近感じるの都市に住んでいる子供はメディアに囲まれ、自

然を必要としていないのではないかという事です。実際自然が無くても快適な生活ができるからです。これからはこのようなライフスタイルをもつと自然を素晴らしいものだと感じる心を育てるスタイルに変えていく必要があるのではないのでしょうか。それには林間学校などにかけて自然に親しむ機会をもつと増やすべきだと思つています。体験することなく自然の大切さは分かりません。守るべき自然がどういうものかを体感することが大切です。変わりゆく自然を知るには普段から自然と触れあつていなければなりません。水や空気の汚れは、まず植物や動物を汚染しやがて人間にもその影響があらわれるからです。

美しい自然を守るために

司会 柴崎先生は伊豆沼で自然保護の事に尽力され、一度壊れかけた自然を復元することの難しさや自然のかけがえのなさを身をもって体験されていると思つています。自然保護の大切さについてどうお考えでしょうか。

柴崎 自然を壊す事は実に簡単です。しかし、人は自然を構築することはできません。出来ることすれば自然を復元する手伝いができるに過ぎないのです。従つて一度自然が失われてしまうと回復に多くの時間とお金が必要です。しかし、このように自然の力によって作られるもの、人の手によつては簡単にできないものの中に、本当は一番大切なものがあるのではないかと考えています。ところで



ボンネルフ：オランダ語で「住居地域」を意味し、車と人との関係を人優先に再編成した空間である。ここでは子供の遊びや母親の行動が重視され、ハンフ(段差)等、車と人が共存するためのさまざまな仕掛が施されている。(詳細は「みやぎの環境」第3号参照のこと)

汐見台のボンネルフ(七ヶ浜町)

近頃、中高年者の登山が増えています。これはこの位の年齢になって初めて本物が見えてくるからだと思えます。最近では通常の生活の空間の中に本物は殆どありません。しかし、自然の中にはまだ本物がたくさん残っています。山の天気や水や緑を全身で受けとめることによって改めて本物に触れる喜びを呼び起こされるためだと思えます。本物指向の現れではないでしょうか。子供達も幼い頃から自然と親しむ事でゆとりある優しい人間になれるように思います。

近江 近江 私達は山を切り開き住宅や建物を作り、庭も作ってきました。庭は二次的自然ですが、私達の生活に潤いを与えてくれます。しかし、最近これを手入れする方法を知らない住民が増えていきます。伸び放題になった庭木が近所とのトラブルの原因になったりもしています。これからはこういう二次的自然に対する係わり方の作法も作って行かないければならないのではないのでしょうか。例えば八木山の松並木が松食い虫のために枯れはじめているのがかなり以前から見られるように



近江先生

環境保護などは長期の視野にたった考え方が必要だと思えます。また、日本はどんなに良い事でもお金をだすことには二の足を踏むような傾向が見られます。環境を守る事は良い事と

なりました。私はこれを日本一の松並木ではないかと思っています。最近になってようやく住民によって保護されようとしてます。今までは行政なども無関心であったようです。汐見台のボンネルフについては第三号に書きましたが、ここは人と車の共存する空間です。ここには人と車が共存するためのルールがあります。これと同様にこれからは人が自然環境に接する作法のようなものを再構築していくことが必要ではないかと思いません。約束事を再確認する必要があるのではないのでしょうか。

伊藤 日本では約束を守るということがなくなつたのではないのでしょうか。日本は木の文化、ヨーロッパは石の文化です。どうも木の文化は変化が速すぎるのではないかと思えます。家も二十五年位で建て代えなければなりません。経済の面ではこれはよいことかもしれません。環境の面からは余りよいとは思えません。スイスには「治療するより予防するほうが良い」という諺があります。石の文化は壊れる前に予防することを考えます。



司会 非常に有意義なお話を伺っているうちに予定の時間になってしまいました。まだまだお伺いしたいことはたくさんありますが、本日の座談会はこれで終了したいと思います。私達もお話を参考にしながら二十一世紀に向けてより良い郷土を作るためのお手伝いをしていきたいと思えます。本日は、お忙しいところをありがとうございました。



山本部長

分かっていてもお金を出すことは悪い事と考えている様に感じられます。奥脇 確かににお金の問題はあると思います。しかし、何処までかけるかというのも問題です。日本には川崎、四日市喘息等の体験から硫酸化物の放出防止等の技術の蓄積もあります。お金をかけさえすれば良いばい煙処理ができるわけです。ゴミ処理だけでも完全に実施しようとすれば毎年十三兆円以上必要です。しかし、ゴミを出さない努力をすればこの半分くらいで処理できます。お金をかけないで環境を守る努力も必要です。これには私達一人ひとりの自覚が大切ではないでしょうか。



NATURE

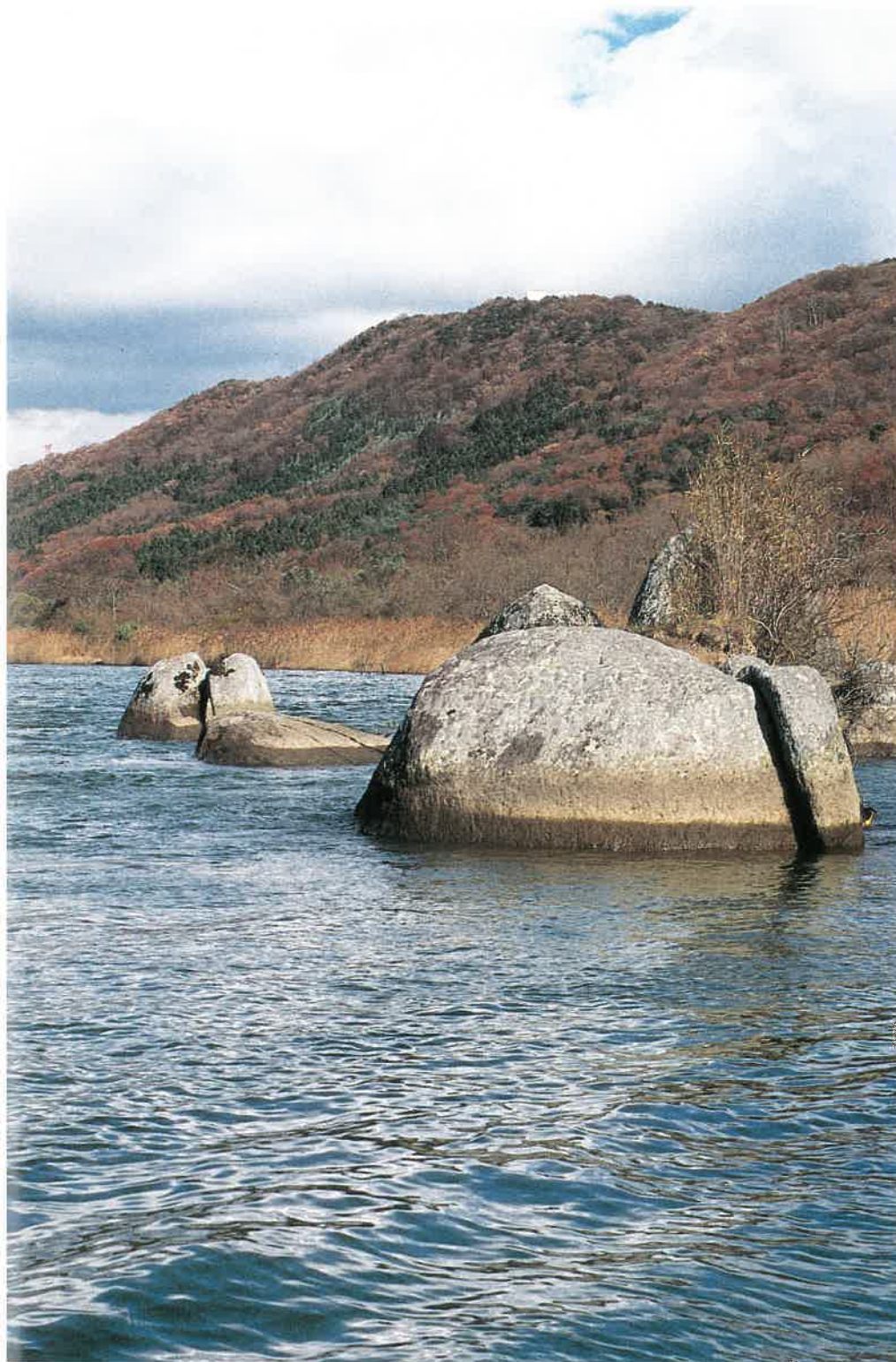
石巻七ツ石

川面に現われた列石

(勸宮城県伊豆沼・内沼
環境保全財団研究室長)

柴崎

徹 (文と写真)



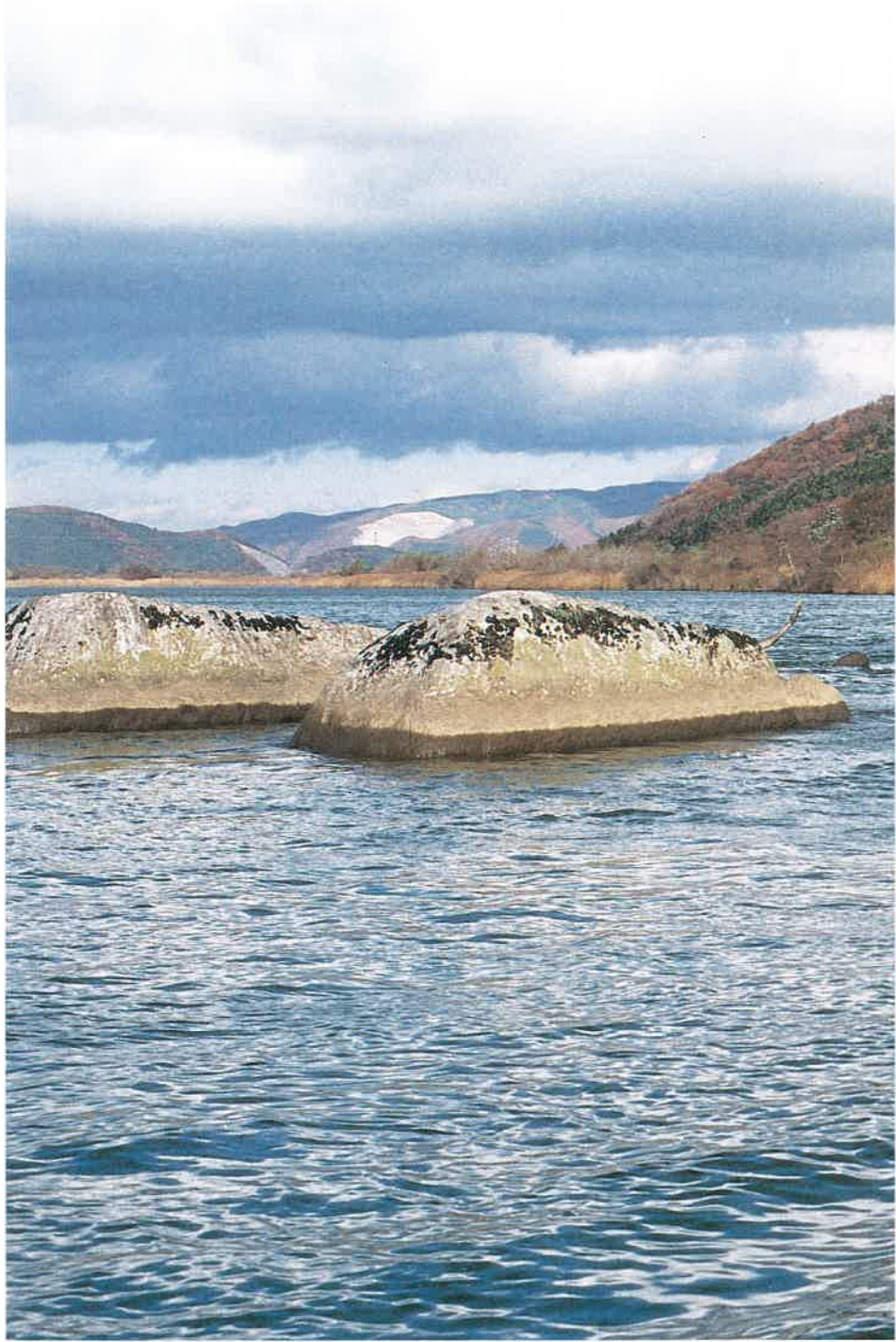
北上川の七ツ石



愛宕山の鳥居と板碑



トヤケ森山頂に立つ板碑



石巻の北に、北上川をはさんで細長い山と丸い山が向かい合っている。トヤケ森と愛宕山だ。

トヤケ森は標高一七三・六メートル、山頂の草原には秋葉神社の板碑が建つ。石巻では馬の背とか馬っこ山と呼んでいる。これは川の東側にある。

愛宕山は標高九六・二メートル、こんもりとした円錐の山で曾波ノ神や愛宕神を祭る鎮守の森、これは川の西側にある。かたちのちがった二つの山は、互いに

共通項をもつ、いわば兄弟どうしの山だ。

この辺りの北上山地は北北東から南南西の方向を軸に、激しい褶曲の地形が波打っている。トヤケ森も愛宕山もそのうねりのひとつである。うねりの強さは西に行くほど小さくなり、トヤケ森をつくり、最後に愛宕山をつくって平野に吸収される。西の愛宕山が東のトヤケ森より低く小さいのは、そのためなのだ。

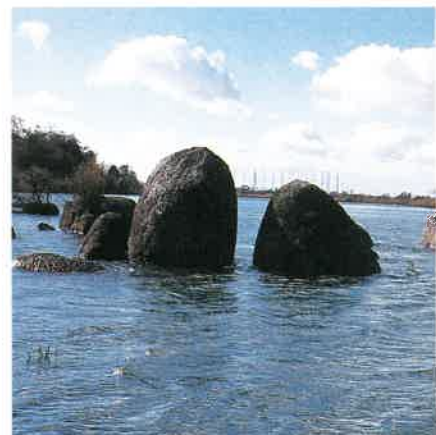
北上川がいつしか流路を変えて、二つの山の間を裂くように流れはじめたと

き、川面に現れたのはトヤケ森から愛宕山へ向かって伸びる見事な列石であった。七ツ石と呼ばれるこの列石は、二つの山が川を越えてつながっていることを暗示している。

私がトヤケ森に登った日、この冬はじめての木枯らしが吹き荒れ、七ツ石には絶え間なく水しぶきが襲っていた。



トヤケ森の山頂から見た愛宕山と北上川
左岸に小さく点在するのが七ツ石である。

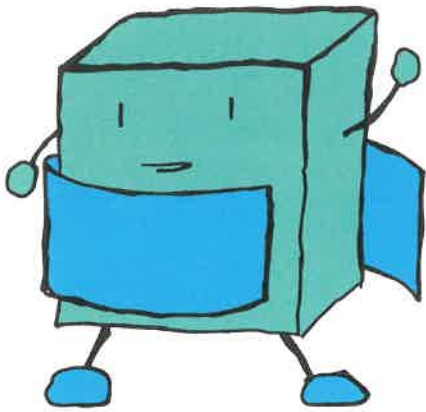


立ち並ぶ七ツ石

● 交通案内 ●

JR石巻駅前から宮城交通バス（鹿又経由 飯野川行、柳津行、豊里行）で曾波の神駅前下車。徒歩十分。
車では国道45号線を石巻より河南町への境界付近を右折。約五分。

★簡易包装推進シンボルマーク★(せんだい簡易包装ネットワークより)



簡易包装をすすめましょう

●ごみを出さない行動に取り組みましょう
ティッシュペーパーではなく布巾を利用しましょう
テーブルのちよっとした汚れなども布巾を使うようにしてティッシュペーパーの三十パーセントを節約すれば、一世帯で年間三・五キログラムの紙のごみを減らすことができます。

過剰包装をひかえましょう
過剰包装などの不要なものによるごみが、家庭ごみの六割近くを占めるといわれています。無駄な包装は断り、お店でも簡易包装を心がけましょう。

その3

ごみの減量化・リサイクルを推進しましょう。

慮配
ラン
ラン
環境
行動
よ

環境保全型ライフスタイルの定着を！

その2

前号(第11号)に引き続き、宮城県が平成七年三月に作成した宮城県環境配慮行動プランから、環境に配慮した暮らしとまちづくりの実現に向けて、私たち一人ひとりの日常生活と最も関わりが深い「環境保全型ライフスタイルの定着」のための行動のうち、プランその3「その5」について紹介します。

●ごみにしない行動に取り組みましょう

新聞、雑誌、紙パックのリサイクルと再生製品を率先して購入しましょう
一世帯で年間に出される古新聞、古雑誌の量は四百八十キログラムといわれており、半分の二百四十キログラムをリサイクルすれば、立木の約五本分の伐採が防げます。また、リサイクル促進のためにも、百パーセント再生トレットペーパーなど古紙混入率の高い商品を率先して購入しましょう。



減量化 ↓



●ごみを出さない行動に取り組みましょう
買った物がごみを利用しましょう
ビニール袋をもらわずに、買った物がごみを使いましょう。使用を半分にするれば、一世帯で年間五キログラムのビニール袋のごみ減量につながります。また、ばら売り、はかり売りを利用し、プラスチックのトレイに入った商品の購入は、できるだけひかえましょう。

空き缶、空きビンのリサイクルで省資源・省エネに協力しましょう
アルミ缶、スチール缶、びん、ペットボトルなどは、再生資源としてとても有効です。また、アルミ缶をリサイクルすれば、原料からアルミニウムを造る電力量の三パーセント程度で済み、スチール缶をリサイクルすれば、新しく造る際のエネルギーの三十パーセントで賄えます。



その4

趣味や行楽のときも
環境に配慮しましょう。

●行楽のあり方を見直しましょう

公共交通機関を利用しましょう

電車やバスなどは、一人を運ぶのに必要なエネルギーの量が、乗用車に比べてはるかに少なくすすみます。渋滞の心配もなく、排気ガスによる温暖化や大気汚染の防止にもつながります。

ごみは持ち帰り、動植物に配慮しましょう

ごみが散らかっているのは、せっかくの行楽も台無しです。ポイ捨ては絶対しないで、ごみの持ち帰りを心がけましょう。また、草花や昆虫は、地域の自然の大切な一員です。禁止区域以外でもむやみな採取はしないようにしましょう。

その5

環境学習に
取り組みましょう。

●環境学習への参加やエコマーク商品を利用しましょう

環境保全活動や講習会などに参加しましょう

地域で取り組んでいる美化活動や緑化運動、環境をテーマとした講習会やシンポジウムに積極的に参加して、地域の連帯感を高め、快適な環境を創造しましょう。

エコマーク商品を利用しましょう

環境への負荷が少ないことや、環境を改善する効果がある商品には「エコマーク」が表示されています。再生紙使用のトイレットペーパーや台所流し台の三角コーナーなど、二千三百二十二の商品（平成七年一月末現在）がエコマーク商品として販売されています。

エコマークとは「私たちの手で、地球を、環境を守ろう」という気持ちを表した、環境保全に役立つ商品につけられるシンボルマークです。環境(Environment)と地球(Earth)の頭文字「E」が人間の手の形となって、地球をやさしくつつみ込んでいくデザインになっています。

(エコマークの「エコ」は私たち人間や生物が生きていくよい環境という意味です)

◎私は生まれてからずっと塩釜で生活しております。私の店の裏には塩釜港に続く川があります。八年前前にここに来た当時は下水、汚水の関係でくさくさ汚い川でしたが、三年前から水がだいぶん澄んできて、護岸には力キヤカニが棲み、満潮時にはハゼやオオガイが入ってきます。窓から釣り糸を落とすとハゼがつかれるようになりました。この川を塩釜港整備のごともっと美しく夢のある川にしたいと思っています。(塩釜市・自営業)

◎提案

「自分の家をもっときれいに整えよう」をもっとアピールしていきたい。庭木が伸び放題で道路や隣地にはみ出しているとか、花の終わった草だけがぼうぼうと荒れた姿をしている庭を多く見るようになってきました。身近な住環境を整えていくことが環境教育の基本であると思います。そのために家族が協力して実践していくことが生きた体験として子どもへの心と技術の発展に役立つのではないのでしょうか。(迫町・公務員)

読者の声

環境保全型ライフスタイルの定着へのプランその1〜その2については、第11号に掲載しておりますのでご覧ください。また、内容についてのお問い合わせは宮城県環境生活部環境政策課(☎022-221-2663)までお願いします。

◎私は家事手伝いをしています。この本はとても勉強になりました。また、宮城にはいいところがたくさんあるんだと思いました。このように環境によい本をまた出して下さい。よい環境になれば、町内の人達ももっと仲良々くらししていけるようになると思います。(古川市・家事手伝い)

◎今年に入って環境の行事或いは新聞記事が目につきます。それだけ環境に対する社会の関心が高くなっているのだと考えます。企業に於いても二十一世紀は環境の時代になると考えられ、これをいかに迎えるかがポイントになるように思われます。是非、企業の活動も取り上げて下さい。(中田町・会社員)

◎いつもみやぎの豊かな自然環境を明るく楽しく特集して下さってありがとうございます。今後楽しい記事を期待しております。(女川町・会社員)



紹介

きれいな川を目指して

―北部地区梅田河川環境美化推進協議会―

仙台市の北部から中心部にかけて流れる梅田川は、市内国見ヶ丘にある調整池と「うどうため池」と呼ばれる沼を源とし、やがて七北田川へ合流する全長十四キロの河川です。

その昔は、川岸の緑の樹影を川面に映す清流だったといわれますが、宅地化の進展とともに生活雑排水が流入し、また



ごみの不法投棄なども後を絶たず、たちまちの内に悪臭漂う魚も住めない川となつてしまいました。

こうした状況を見かねて、「北部地区梅田河川環境美化推進協議会」が設立され、本格的な河川浄化運動が始まったのは、昭和四十年のこと。流域の二十八町内会と一企業が参加し、清掃活動のほか、河原の草刈りや花木の植栽などに取り組んで来ました。毎年四月から十月まで、毎月第三日曜日を清掃日と定め、年間約七百人が参加して活動を続けています。

推進協議会の運動も、今年でちょうど三十周年。最近では、川のごみが減り、水質も浄化されて、魚や鴨なども戻ってくるようになりました。こうしたボランティアの皆さんの活動が高く評価されて、昭和六十一年に宮城県知事、六十二年に建設大臣、平成三年には環境庁長官など、多くの表彰に輝いています。

今年も、さらにきれいな川を目指し、新たな取り組みを開始しました。仙台市や学識経験者と協力しながら、水質浄化に効果のある木炭を、川の汚れが目立つ場所に沈めるといったもの。協議会では、こうしたさまざまな活動を通じ、身近にある自然「梅田川」を、憩いや安らぎのある都市のオアシスとして残していきたいと考えています。

(M・S)

▼連絡・お問い合わせ先

〒980-091 仙台市青葉区上杉一―五―一

仙台市青葉保健所衛生課

☎〇二二―二二五―七二二―

内線六七二八

環境情報センターから

新刊図書のご紹介

私たちの豊かな生活は、何に支えられているものなのか、また、便利な毎日の暮らしで出す「ごみ」がどれだけあつて、環境破壊に繋がっているのか考えられたことがありますか。来たる二十一世紀の地球環境と調和した暮らしの実現に向けて、一人ひとりのライフスタイルの見直しが問われています。センターでは、多様な市民団体の活動を紹介した「環境にいいことを始めよう」の本を始めとして、本年度も図書を購入しました。快適な環境づくりの参考書としては是非御活用下さい。

▼内容紹介

「地球にやさしく生きる人たち」

日本環境協会編

九十四年九月、著者は東京で国連事務総長のフトロス・ガリ氏や向井千秋氏の記者会見を直接聞く機会を得ました。そ



〒983

仙台市宮城野区幸町4-7-2

宮城県保健環境センター内

宮城県環境情報センター

TEL 022(257)7181 内線29

利用時間/月～金曜日、午前9時から午後4時まで

休館日/土・日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)

交通/仙台市営バス 保健環境センター・たばこ工場前下車すぐ
宮城県総合衛生学院隣り



ここで、ガリ氏の「環境問題は一国の問題ではなく、一つの大陸の問題でもない。これは世界的な問題で解決には日本の役割はかりきれず、国際貢献を期待してやまない。」という話や向井氏の「宇宙から見た自然界の壮大さに感動した。」という話を聞きました。これを契機に著者は日本にも環境にやさしく生きている人たちが大勢いる事を知り、そのうちの十一人の活動をおして地球にやさしく生きるためのヒントを紹介しています。

牡鹿町 御番所公園

会うたびにドラマの連続

生きている自然

牡鹿半島の最先端に位置する御番所公園（標高約二〇〇メートル）は、金華山及び牡鹿半島表海岸と遠く仙台、福島方面まで一望できるところで、慶安元年（一六四八年）仙台藩はこの地に唐船番所を設けました。

一四・四ヘクタールの園内にはこれらの歴史的・自然的資産を十分に活用し、景観を楽しみながら自然にふれあい、親しめるように各施設を整備しました。

仙台藩唐船番所は木造平屋建てで、歴史的事実に基づいて復元しました。内部には当時の見張り当番の様子も人形で再現されております。

展望棟（管理事務所）は二階建て円形の建物で、二階の展望台からは金華山を目前に網地、田代の島々と石巻、松島、仙台と続く海岸線や遠く蔵王のやまなみまで三六〇度の眺望が楽しめます。

多目的観察所（ログハウス）は五棟あり、野鳥観察や天体観察に利用できます。外観は丸太を使ったログハウスで一〇畳の和室、トイレ、ミニキッチン付きで全棟一〇〇〜二〇〇ミリの天体望遠鏡を備えており、満天の星空と



ロマンを堪能できます。

また、野鳥観察所が園内三か所に設置されており、四季折おりに訪れる野鳥の生態や自然の姿が楽しめます。

地形を利用した園内には、芝生広場、アスレチック施設、散策路、花畑などがあり自然の中で景観を楽しむとともに自然の大切さも学べるよう工夫されております。

ガイド

■交通案内

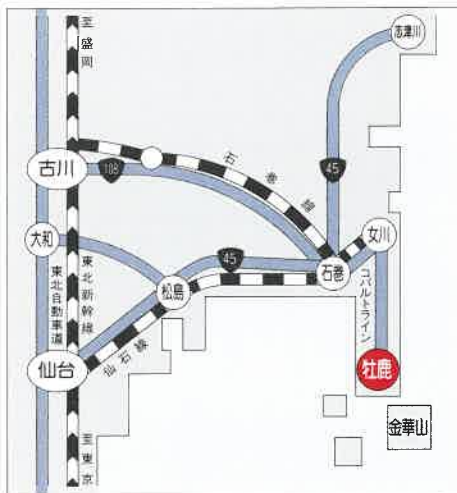
- 仙台より車で約2時間30分
- 石巻より車で約1時間

■東北自動車道利用の場合

- 古川I・C (国道108号線 60分) 石巻-牡鹿町
- 大和I・C (国道45号線 60分) (60分)

■お問い合わせ

御番所公園管理事務所 ☎0225-45-3584



■ご利用料金

種類	単位	使用料	備考
個別サイト	電源付きサイト1泊	6,000円	定員 5名 超過料金は1人 500円
	サイトA 1泊	4,000円	
	サイトB 1泊	3,000円	
フリーサイト	日帰り利用 大人1人	300円	
	日帰り利用 小人1人	100円	
	テント1張 1泊	3,000円	
洗濯機・乾燥機	1回	100円	コイン式
ガスコンロ	1回	10円	コイン式
毛布	1枚 1泊	100円	日帰り利用も同じ
ケビン	A棟 1泊 (定員5名)	15,000円	宿泊は午後2時から午前10時まで 休憩は午前10時から午後2時まで 休憩時の超過料金は1人 500円
	B棟 1泊 (定員8名)	22,000円	
	休憩 (定員8名)	4,000円	
冬期加算	1棟 (1泊・休憩)	6,000円	
		1,000円	

古い街並みとともに生きる——登米町

隠されたパースペクティブ

東北大学工学部教授 近江 隆

登米町は藩政時代の城下町の名残りをよく留めた町であり、また、明治の近代建築が残る数少ない町でもある。近年の建物の修復、街並み整備、地域景観づくりにより、街角のあちこちに時間と空間の重なりを感じさせる場所がある。武家屋敷町の一角はそうした場面の展示場である。

城下町や宿場町ではよく鉤かぎの手に曲がった道路を目にする。クランクとか柵型ますがたと呼ばれる。城の虎口（出入口）の防御施設の一つである。その形と出入りする部隊の人数を柵のように量ることにその呼称の起源があるらしい。敵の直進を防ぐために、直線的な正面性をその入口で曲げることにより見透しを遮る手法である。平和な時代にはこの遮ることが別な働きをする。それは次なる光景への期待の増幅である。不意に現れるもう一つの角と閉鎖的な空間の次に、一直線に開けたパースペクティブがある。ここには軸線、正面性、奥という言葉が実感をもって感じられる。

現代の車社会に合わないこの曲がった道は、その中に入った一瞬の時間をタイムスリップした別世界へと誘うタイムトンネルである。その周囲の朽ちた土蔵、門構え、塀、散在する高木らは、その経過した時間を意識に引き戻すかのようたなすに佇む。

*パースペクティブ(Perspective)……見透し・眺望



クランク、柵型と呼ばれる鉤の手に曲った道路

交通

- JR瀬峰駅から宮城交通バスで登米営業所行(終点下車) 約1時間
- 仙台より車で約2時間
- 石巻より車で約40分



武家屋敷町の一角



朽ちた土蔵



散在する高木と門構え



明治の近代建築



県木：ケヤキ